中国五県の防衛警備を担う第１３旅団広報紙

みつや

Vol.３２０
2026．８



令和８年度旅団渡河訓練（広島県太田川放水路）

令和８年度旅団渡河訓練

　旅団は８月２４日から２８日までの間、令和８年度旅団渡河訓練を実施しました。渡河ボートの組立から航行について教育・練成を行い、部隊対抗方式の大会を実施しました。降雨災害事態への対応能力を維持・向上させるとともに、部隊の団結強化及び士気高揚を図りました。
　引き続き、国民の皆様の安心・安全のため、練度向上に努めてまいります。



【日頃の訓練の成果を「かい」に込めて漕ぎました！】



【ゴール目指してひたすら漕ぐ！】



【力を合わせて、安全に速く前進！】



【広島市西区にある太田川放水路で訓練を実施しました】



【準備を万全にして訓練に臨みました】



【練度の向上及び部隊の団結が強化されました】

履修前教育

第１３後方支援隊は、陸曹候補生課程への入校を控える隊員に対して履修前教育を実施しました。８月４日から５日の間に実施した総合訓練では、これまで学んだ知識及び技能を発揮して臨みました。



【吹き出す汗、厳しい暑さの中、ひた向きに訓練に臨みます】



【ドーランを塗り、訓練に臨む準備は万端です】



【警戒しつつ、安全に道路通過します】



【訓練の最後はハイポートで力を出し切りました！】

令和８年度対空実射訓練

第１３高射特科隊は８月１日、静内対空射撃場において令和８年度対空実射訓練を実施しました。隊員一人ひとりが強い責任感と高い緊張感を持って訓練に臨み、対空戦闘能力を向上させることができました。



【目標に向けて発射！（８１式短距離地対空誘導弾）】



【現地において細部指示を行う】

日本スカウトジャンボリー支援

旅団は、８月４日から１０日の間、広島県神石高原町で開催された第１９回日本スカウトジャンボリーを支援しました。参加されたスカウトの皆さんが、安全で充実した大会を過ごせるよう、それぞれの任務に取り組みました。


【日本スカウトジャンボリー支援】

【プログラム協力（装備品展示：人命救助セット）】


【日本スカウトジャンボリー支援】

【大集会での第１３音楽隊の演奏】

各駐屯地の夏祭り行事

７月及び８月、各駐屯地において夏祭り行事を開催しました。各種イベント・催し物・キッチンカーなどを準備し、行事の最後には夜空を彩る打ち上げ花火により、ご来場いただいた方々を魅了しました。



【米子駐屯地】

【サマーフェスタ（８月５日）】


【日本原駐屯地】

【納涼大会（７月２２日）】



【海田市駐屯地】

【夏祭り（８月４日）】


【山口駐屯地】

【音楽と花火の夕べ（８月８日）】

部隊長投稿コラム

百万一心



「掌握」

第１３偵察戦闘大隊 副大隊長

藤松 俊也 ３等陸佐

第１３偵察戦闘大隊は、今年度の戦力化の完整に向けて日々精進中であります。さて、私も自衛隊勤務も３０年を超え、様々な経験をさせていただきましたが、特に重要と感じるのは、「**掌握**」です。指揮の要訣にも「指揮の要訣は、指揮下部隊を確実に**掌握**し、・・・」と冒頭にあり、指揮下部隊、隊員を掌握することは指揮をする上での基礎であること、できていなければ、指揮もできないし、任務を達成することはできないと思います。

これが本当に重要だと実感した経験がありました。それは、陸曹でレンジャー集合訓練に参加した時でした。教育前段の体力調整期間も終え、教育後段の連続状況下で実施する想定訓練に入り、ある想定で山中を夜通し歩いている途中で悪天候となり、雷雨となったため、明るくなるまでその場で待機することとなりました。全員、雨に打たれながら、歩いていたため、疲労困憊していました。助教も同じ状態だったと思います。少しずつ明るくなるにつれ、天候も回復したため、引き続き前進を開始し、２時間ほど歩くと目的地の公園に到着、健康状態や装備品の異状がないことを確認した後、迎えにきていた大型トラックに乗車、駐屯地へ前進しました。その道中、同期のM士長がいないことに気づき、指導部に報告すると指導部の顔色が変わり、すぐに捜索を開始しました。指導部が現地の公園に到着後すぐにM士長が発見され、本人は全員が山中で待機していた時、眠ってしまい、みんなが前進する時も眠り続け、気が付いたら誰もおらず、とりあえず下山したとのことでした。無事だったから良かったものの、一人山中で滑落した場合は、事によっては命の危険があったことから、いかなる状況の中、疲労困憊の中でも隊員の**掌握**がいかに重要か身に染みて感じました。この経験から、幹部となってからも、まずもって部隊・隊員の**掌握**をするように心掛けています。

みなさんも、これから指揮官や現場の長になることがあると思いますが、確実に部隊・隊員を**掌握**し、任務に邁進して頂きたいと思います。

最先任上級曹長等投稿コラム

三矢の訓え



「上善如水」

第１３後方支援隊
輸送隊 先任上級曹長

井上 勉　１等陸曹

令和８年８月１日付で、第１３後方支援隊輸送隊先任上級曹長に上番した井上１曹です。歴史と伝統のある第１３後方支援隊輸送隊の先任上級曹長という職務を拝命したことに、非常に身の引き締まる思いでありますが、全身全霊で職務に取り組んでいく所存でありますので、よろしくお願い致します。

さて、この度、旅団広報紙「みつや」に投稿させていただく機会を得ましたので、私の座右の銘を紹介したいと思います。

私の座右の銘は「上善如水（じょうぜんみずのごとし）」です。これは、新潟の純米吟醸酒で、すっきりとした口当たりの、非常に飲みやすい日本酒で、私の大好きなお酒の一つです。という日本酒の話ではなく、これは、古代中国の老子の言葉で、最も理想的な生き方は、水の在り方に学べということです。水には、学ぶべき３つの特徴があります。

１つ目は、極めて柔軟であることです。水は四角い容器に入れば四角い形になるし、丸い容器に入れば、丸い形になる。器の形を変えても、決して逆らわない柔軟さがあるところです。

２つ目は、謙虚であることです。水は、人が嫌がる低い所、低い所へと流れて行きます。自分の能力や地位に胡坐をかくことなく常に、低姿勢であるところです。

３つ目は、すごいエネルギーを秘めていることです。急流ともなれば、硬い岩をも打ち砕いてしまいます。普段は穏やかですが、いざとなればすごい力を発揮するところです。

このように水は、柔軟、謙虚及び秘めたエネルギーという３つの特徴を持っています。

私も、この言葉を胸に、日々、自分を律して行動することができれば、理想的な人間に近づいていけると思います。今後もこの言葉を行動の指針とし、輸送隊の陸曹及び陸士を善導できるように日々精進して参ります。

注目の隊員を紹介

SPOTLIGHT



第１３旅団司令部付隊

山本 恵美 陸曹長

山本曹長は平成１８年３月に一般２士として入隊し、前期教育を第１０９教育大隊（大津）、後期教育を第３後方支援連隊（千僧）で修了後、第３６普通科連隊に配属、令和元年に第１３旅団司令部付隊に配属され、現在は監察官室において文書陸曹として活躍しています。

＜プロフィール紹介＞

Ｑ１　自衛隊に入隊したきっかけは何ですか？

学生時代から社会貢献出来る仕事に就きたいと考えており、自衛官になれば社会貢献及び各種資格取得による自己成長も可能だと考え入隊しました。

Ｑ２　現在の職種（衛生科）を希望した理由はなんですか？

医療系の仕事に興味があり、各種医療資格を取得すれば組織内でも貢献出来るうえに災害派遣や国際派遣の任務の際にも貢献できると考えたからです。

Ｑ３　学生時代の部活動は何ですか？

中学生では陸上を、高校生では空手をしていました。

Ｑ４　あなたの自慢（長所）を教えてください。

一言で言うと努力家です。自己成長（自分のアップデート）を常に考えていて、未経験の事や新しい分野を学んだり挑戦することが好きです。

Ｑ５　入隊して苦労したことは何ですか？

衛生科は業務の中に救護支援があるのですが、救護支援の現場では常に同じ状況が起こることはなく、毎回基盤や状況が異なる中で隊員の方々を支援しなければいけません。そのために常に知識・技術の向上に努めることはもちろんですが、救護支援の現場で最良の状況判断・決心が出来るよう常日頃からPDCAサイクルなどで様々なことを考えるよう努めることが大変です。

Ｑ６　自衛隊での一番の思い出は何ですか？

准看護師・救急救命士課程への入校です。同期と切磋琢磨しながら資格取得に向けて頑張った日々は一番の思い出です。

Ｑ７　自衛官を目指す人にメッセージをお願いします。

自衛隊は様々な入隊ルートがあり、入隊後も個人の状況や希望に沿った最適なルートを選択していくことも可能です。努力や業績によって大きな自己成長も可能なので是非入隊して頂きたいと思います。